

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ルビアコート越谷新築工事	階数	地上13F
建設地	埼玉県越谷市	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	111人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年2月 予定	評価の実施日	2020年8月15日
敷地面積	484㎡	作成者	永塚吉幸
建築面積	280㎡	確認日	2020年8月17日
延床面積	2,863㎡	確認者	永塚吉幸



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.8

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
省エネ性能等、隣接地及び周辺地域の環境に配慮した計画とする。		
<b>Q1 室内環境</b> 開口部の遮音性能・開口面積の確保・複層ガラスの採用、日本住宅性能評価基準5-1等級4の取得予定	<b>Q2 サービス性能</b> 日本住宅性能表示基準 3、劣化対策 等級3を取得予定	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 可能な限り敷地内の緑化に努めた。
<b>LR1 エネルギー</b> 日本住宅性能評価基準5-1等級4の取得予定、建築物省エネ法にて建物全体のBEIが1.00未満	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ノンフロン断熱材の採用	<b>LR3 敷地外環境</b> 交通負荷抑制、光害の抑制を中心に配慮された計画である。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(仮称)ルビアコート越谷新築工事**

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.40</b>		<b>-</b>	<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>						<b>4.0</b>	0.15	<b>3.3</b>	1.00	<b>3.5</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1.2 遮音						<b>5.0</b>	0.50	<b>3.6</b>	0.50	
1 開口部遮音性能		T-2 採用				<b>5.0</b>	1.00	<b>5.0</b>	0.30	
2 界壁遮音性能						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.20	
1.3 吸音						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.6</b>	0.35	<b>4.0</b>	1.00	<b>3.5</b>
2.1 室温制御						<b>2.2</b>	0.50	<b>4.0</b>	1.00	
1 室温						<b>3.0</b>	0.63	<b>-</b>	-	
2 外皮性能		日本住宅性能表示基準 5-1 等級4取得予定				<b>1.0</b>	0.38	<b>4.0</b>	1.00	
3 ゾーン別制御性						<b>3.0</b>	-	<b>-</b>	-	
2.2 湿度制御						<b>3.0</b>	0.20	<b>-</b>	-	
2.3 空調方式						<b>3.0</b>	0.30	<b>-</b>	-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.0</b>	0.25	<b>2.9</b>	1.00	<b>2.6</b>
3.1 昼光利用						<b>1.8</b>	0.30	<b>2.9</b>	0.30	
1 昼光率		昼光率:専用部1.50%				<b>1.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.50	
2 方位別開口						<b>3.0</b>	-	<b>1.0</b>	0.30	
3 昼光利用設備						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.20	
3.2 グレア対策						<b>1.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30	
1 昼光制御						<b>1.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	1.00	
3.3 照度						<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.25	
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.0</b>	0.25	<b>3.2</b>	1.00	<b>3.1</b>
4.1 発生源対策						<b>3.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質						<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	1.00	
4.2 換気						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.6</b>	0.38	
1 換気量						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33	
2 自然換気性能		居室面積の1/6以上の開口可能な窓の確保				<b>3.0</b>	-	<b>5.0</b>	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33	
4.3 運用管理						<b>-</b>	-	<b>-</b>	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						<b>3.0</b>	-	<b>-</b>	-	
2 喫煙の制御						<b>3.0</b>	-	<b>-</b>	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						<b>-</b>	<b>0.30</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>2.8</b>
<b>1 機能性</b>						<b>2.4</b>	0.40	<b>2.6</b>	1.00	<b>2.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
2 高度情報通信設備対応						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	1.00	
3 バリアフリー計画						<b>3.0</b>	1.00	<b>-</b>	-	
1.2 心理性・快適性						<b>1.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.50	
2 リフレッシュスペース						<b>3.0</b>	-	<b>-</b>	-	
3 内装計画						<b>1.0</b>	1.00	<b>1.0</b>	0.50	
1.3 維持管理						<b>3.0</b>	0.30	<b>-</b>	-	
1 維持管理に配慮した設計						<b>3.0</b>	0.50	<b>-</b>	-	
2 維持管理用機能の確保						<b>3.0</b>	0.50	<b>-</b>	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.1</b>	0.30	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50	<b>-</b>	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						<b>3.0</b>	0.80	<b>-</b>	-	
2 免震・制震・制振性能						<b>3.0</b>	0.20	<b>-</b>	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.4</b>	0.30	<b>-</b>	-	
1 躯体材料の耐用年数		日本住宅性能表示基準 3 等級3取得予定				<b>5.0</b>	0.20	<b>-</b>	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						<b>3.0</b>	0.20	<b>-</b>	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.10	<b>-</b>	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.10	<b>-</b>	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.20	<b>-</b>	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.20	<b>-</b>	-	
2.4 信頼性						<b>3.0</b>	0.20	<b>-</b>	-	
1 空調・換気設備						<b>3.0</b>	0.20	<b>-</b>	-	
2 給排水・衛生設備						<b>3.0</b>	0.20	<b>-</b>	-	
3 電気設備						<b>3.0</b>	0.20	<b>-</b>	-	
4 機械・配管支持方法						<b>3.0</b>	0.20	<b>-</b>	-	
5 通信・情報設備						<b>3.0</b>	0.20	<b>-</b>	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>2.9</b>	1.00	<b>2.9</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>							0.50
1	階高のゆとり	階高2.91m	3.0	-	4.0	-	0.60
2	空間の形状・自由さ		3.0	-	1.0	-	0.40
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			3.0	-	3.0	-	0.50
<b>3.3 設備の更新性</b>			3.0	1.00			-
1	空調配管の更新性		3.0	0.20			-
2	給排水管の更新性		3.0	0.20			-
3	電気配線の更新性		3.0	0.10			-
4	通信配線の更新性		3.0	0.10			-
5	設備機器の更新性		3.0	0.20			-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20			-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	1.8
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			1.0	0.30	-	-	1.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			2.0	0.40	-	-	2.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>							3.3
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	3.8
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		日本住宅性能表示基準 5-1 等級4取得予定	4.0	0.20	-	-	4.0
<b>2 自然エネルギー利用</b>			2.0	0.10	-	-	2.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.88	4.4	0.50	-	-	4.4
<b>4 効率的運用</b>			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価							
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	3.0
<b>1 水資源保護</b>			3.0	0.20	-	-	3.0
<b>1.1 節水</b>			3.0	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げが容易に分別可能	4.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			4.4	0.20	-	-	4.4
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			3.0	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			5.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ハンプロン断熱材	5.0	1.00	-	-	
3	冷媒		-	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	3.0
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		CO2評価値/参照値の割合 80%	3.8	0.33	-	-	3.8
<b>2 地域環境への配慮</b>			2.2	0.33	-	-	2.2
<b>2.1 大気汚染防止</b>			-	-	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			2.0	0.67	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			2.7	0.33	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			3.0	0.33	-	-	3.0
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)ルピアコート越谷新築工事	BEE	1.0	BEEランク	★★★
------	------------------	-----	-----	--------	-----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.8	+	1.6	=	5.4	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上		
	 	  	   		

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	3.8
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.8
<配慮した内容を記述>			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	1.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	1.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	2.0
<配慮した内容を記述>			

: 入力欄